



記憶に残しておきたい風景 2匹の竜が伝える 地層の歴史

〔川原湯岩脈の「臥竜岩」「昇竜岩」〕

臥竜岩

ゴツゴツとひび割れた荒々しい岩肌が川の対岸まで続く「臥竜岩」。吾妻川特有の神秘的なブルーの色とも相まって、印象的な光景を作り出している。大地の歴史を私たちに伝え残り、まもなく水底に還ることとなる。

昇竜岩

落石防止ネットがかけられているため見えにくいですが、山肌の一部に見事な柱状節理（マグマが地中で冷えて固まったもの）が上方まで続いている。吾妻渓谷沿いの山々には、こうした柱状節理が多く見られる。



岩脈が覗く吾妻川と「久森の洞門」、その奥にかつては川原湯温泉の町並みが見えた。長野原町住民にとっては懐かしい風景。

川原湯から久森地区にかけての吾妻川流域に残る、「臥竜岩」「昇竜岩」に代表される「川原湯岩脈」は、長野原町の地質の成り立ちを示す貴重な遺産です。ハツ場ダムの完成とともに、惜しくも水没することとなりますが、もう一度、その姿を目に焼きつけておくために特別に立ち入り禁止区域を訪ねてみました。

地上に姿を現した 200万年前の2匹の竜！

旧国道145号線は、現在、林地地区より先は、工事車輛以外は進入禁止となっています。この日は、国土交通省の担当者との立ち会いのもと、奥まで入らせて頂きました。

栄橋付近の歩道から吾妻川を見下ろすと、橋のたもとにひび割れた角材が斜めに積み重なったような、むき出しの岩の塊が見えます。これが「川原湯

岩脈」の一部、「臥竜岩」です。幅5mほどの岩の先端は、川の対岸まで続いています。竜がお腹を上にして川に横たわっているように見えることから、この名が付けられました。

「臥竜岩」の先、久森トンネルの手前の山側には、落石防止のネットに覆われて見えにくくはありますが、水平にひび割れた岩脈がほぼ直立して上方へと伸びているのが見て取れます。こちらは、天に駆け上る竜に見立てて、「昇竜岩」と呼ばれます。

2匹の竜のかたちで地表面へと姿を現した「川原湯岩脈」とは、今から一千万年前の最も古い地層に、その後マグマが貫入して帯状に固まった岩体のこと。放射年代の測定から、「臥竜岩」は今から220万年前に作られたことが明らかになっており、「昇竜岩」は年代は不明なものの「臥竜岩」よりも古いとされています。

両岩とも、昭和9年に国指定天然記念物に指定され、吾妻渓谷沿いの観光スポットのひとつとして注目を集めてきました。

01



02



03

04

01. 水没区間となるため立入禁止となった旧国道 145 号沿いの現在の風景から、「久森の洞門」。

があったのもこの頃です(⑥)。火山活動の休止期を経て(⑦)、約200万年前に吾妻溪谷の南の地域に溶岩流や火山砕屑物が積もり「川原湯峠層」となります(⑧)。しばらく火山活動は収まり表面は起伏に富むようになりますが(⑨)、やがておよそ120〜90万年前に活発化した火山活動の溶岩や噴出物が菅峰や王城山・高間山などの火山を作りました(⑩)。

◎今回訪れたのは…
川原湯岩脈の「臥竜岩」「昇竜岩」

参考資料：「長野原町の自然」<ハッ場ダム湖予定地及び関連地域文化財調査報告書>(長野原町/1993年発行)、「吾妻溪谷見て歩き」(浦野安孫著/上毛新聞社/平成26年4月発行)

ふるさと
再発見

[10]
—文化財だより—

1月20日早朝
天下の奇祭
【湯かけ祭り】

り、祭り当日には大勢の見物客やカメラマンで賑わっています。次号は【滝沢観音石仏群】を紹介します。



言い伝えでは、今から四百年ほど前に温泉が突然止まり、困り果てた村人たちは温泉が茹で卵の匂いなので湯の神様はニワトリかもしれないと、ニワトリを生け贄にして祈ったところ、再び豊かな温泉が湧き出したので「おゆわいた」「おゆわいだ」とお湯をかけあつて喜んだのがこの祭りの始まりだと言われています。

昔は、誰彼構わずお湯をかけ、祭りに出ない家にも片っ端からお湯をかけて回りました。かけられると厄落としになると喜んだ人もいましたが、喧嘩になったこともしばしばありました。

「こんな野蛮な祭りはやめよう」と一度やめたところ、疫病が流行り亡くなる人も出ました。湯かけ祭りをやめたせいだということなどで、祭りはその後途切れることなく続いています。

今では天下の奇祭として知れ渡



川原畑層がつもつたのは水中とされているけど、その頃このあたりが海だったのか湖だったのかなどは、まだわかっていないんだって。

長野原町の地層形成の復元図

※図の左側が南を、右側が北を指す。(出典：「長野原町の自然」より)

